科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：飲み水を考える ILAS Seminar :Drinking Water			担当者所属 職名・氏名	工学研究科　教授　　伊藤　禎彦 工学研究科　助教　　安井　碧		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	10 (10) 人	配当学年	１回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	総合研究4号館共通4 (本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	水道 / 環境 / 飲み水 / 水 / 国際協力						

[授業の概要・目的]

わが国は、水道水を蛇口からそのまま飲むことができる世界でもまれな国である。一方、世界には安全な水を手に入れられない人々が約8億人存在し、それが原因で毎日5000-6000人の乳幼児が命を落としている。このセミナーでは、世界における衛生的な水へのアクセス問題から説き起こし、飲み水の安全性、流域の水環境、必要な技術、行政的なしくみ、国際協力などの多方面から、飲み水についてともに考えたい。

[到達目標]

まず、飲み水の問題を考えるときに必要となる領域の広がりを理解する。本年度は特に、健康影響との関連や水道経営上の課題についても考えてみたい。その上で、各自の課題を設定し、それぞれの視点から主体的に理解を深める。中間報告会と最終成果発表会で発表し、プレゼンテーション能力を高める。

[授業計画と内容]

１．水を巡る問題とその関連領域
２．世界における衛生的な水へのアクセス問題
３．飲み水の安全性と健康影響
４．浄水処理の技術
５．水道・下水道とその役割
６．飲み水の量と質を確保する技術に関するディスカッション
７．中間発表会
８．琵琶湖・淀川流域と水環境
９．流域の農林水産業と水道原水
１０．水を巡る法律と管理のしくみ
１１．水の経済学
１２．国際協力とそのあり方
１３．行政的施策のあり方に関するディスカッション
１４．成果発表会
１５．フィードバック

[履修要件]

特になし

ILASセミナー ：飲み水を考える(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー　：飲み水を考える(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%（ディスカッションへの参加状況20%，課題に関する中間発表会と成果発表会30%）
レポート50%

[教科書]

必要に応じてプリントを配布。

[参考書等]

（参考書）
伊藤禎彦、上月康則、山崎慎一、藤原拓、西村文武、山本裕史、橋本温、樋口隆哉、山中亮一、大谷壮介 『よくわかる環境工学』（理工図書）ISBN:978-4-8446-0831-8

[授業外学修（予習・復習）等]

予習または復習として、自分の出身地の水道やその浄水処理方法について調べると良いでしょう。授業で提供する話題をもとに自分が関心をもつ領域をみつけ、その後は、自ら課題を設定して取り組みます。全ての学部の学生が、適切な課題を見つけられると思います。中間と最終の発表会ではその成果を発表してもらいます。

[その他（オフィスアワー等）]